

きほくのまち人探訪

「鬼北に定住し、土や水に触れながら地域貢献したい」



うめもと しんいち
梅本 信一さん

8月から鬼北町農業研修生となり、就農を志す梅本信一さん。農業の経験はゼロですが、鬼北町農業公社で基礎から農業技術を学んでいます。

福岡県出身の梅本さん。以前は転勤の多い仕事に就いていましたが、「土や水に直接触れる仕事がしたい」「自分の手で何かを作り出したい」という思いがあり、就農の道を選びました。

鬼北での住居は、町の空き家バンクを通して契約。年代物で修繕が必要な箇所もある家ですが、なるべく自分の手で直すように努力しています。農業のように、手をかけた分だけ収穫が得られること、頑張っ

ただ努力が報われることが好きで、何事にもひた向きに取り組んでいます。

十数年前に興味のサイクリングで鬼北を訪れ、そのときに「鬼北町いいな」と感じたことが、鬼北への移住のきっかけ。住居の修繕や整理が一段落したら、自然の中を自転車で駆け抜けることが楽しみです。

2年間の農業研修の後は、特産品のユズの栽培を行うほか、狩猟免許を取得して鳥獣害対策にも取り組むなど、鬼北に定住し地域貢献することが大きな目標。努力の形が“実り”として現れるように頑張りたいと、真剣な眼差しで話していました。

ALTの鬼の里Diary ~Nicole編~

「I have never experienced summer like Kihoku」



私は、鬼北のような夏をこれまで体験したことがありません。というのは、私の出身地である南カリフォルニアは湿度が低く、虫も少ないからです。ただ、南カリフォルニアの8月は非常に暑くなるがあります。気温が46℃まで上がっているのを見たことさえあります。

私の故郷で人々が夏に好きなアクティビティは、海に行ってサーフィンをしたり、ビーチでリラックスしたり、夜にバーベキューやたき火をしたりすることです。そういう意味では、アメリカ人は日本人とあまり変わらないと思います。どんな場所でも、家族や友達と外で過ごすのは気持ちがいいもの

です。

話は変わりますが、引越はいつも大変です。けれど、鬼北に住むことができ幸せです。こちらでお会いする方は、みんな親切でフレンドリーですし、新しい食べ物やレストランを試すのは本当に楽しいです。

散歩も楽しんでいます。この町で見慣れない2人を見た方がいらしたら、それは、おそらく夫と私です。

もうすぐ秋なので、これからの自然の変化が楽しみです。特に紅葉は美しいと思います。

皆さんもこの新しい季節を、一緒に楽しんでいただければ幸いです。

地域おこし協力隊活動日記

「気付けば秋になってました」

地域おこし協力隊1年目

おおむら さとし
大村 怜



今年4月に着任した協力隊、大村です。春に着任したばかりだと思っていたら、いつの間にか季節は秋になっていました。時間の流れは早いですね。

協力隊に着任してから、例を上げきれないほど多くの経験をさせていただきました。春には雛だったキジも、すっかり大きくなりました。もう出荷の時期も間近です。

話は8月に遡りますが、畑でスイカが採れました。自分で一から土を作り、野菜を育てるという経験は人生初のことでした。小さな苗が大きくなり、収穫を迎える喜びは育てた人にしか分からないことだと思

ます。10個ほど採れたスイカは東京の実家にも送りましたが、家族は大変喜んでくれました。野菜作りのやりがいは、こういったところにあると思います。また来年もスイカを作りたいと考えています。

余談ですが、10月12日に23歳の誕生日を迎えます。心の中でそっとお祝いしていただけると嬉しいです。

